

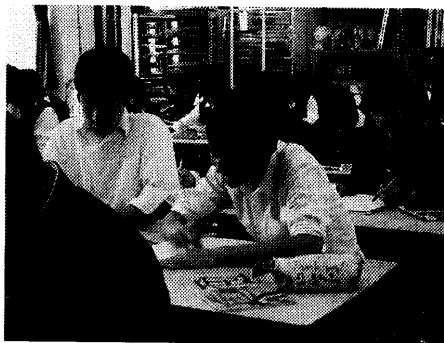
単元名 視覚の世界を探究しよう

1. 単元の目標・ねらい

物事や自然の事象についてとらえ表現しようとするとき、私たちは多様な手段を持っている。例えば、数値化して分析する、文章や言葉で伝える、絵や図に描いて表現する、音で表現する、などである。

本単元では、視覚芸術・視覚表現の視点から文化事象を見つめ、その背景を探究することによって、人間とその文化についての理解を深める。

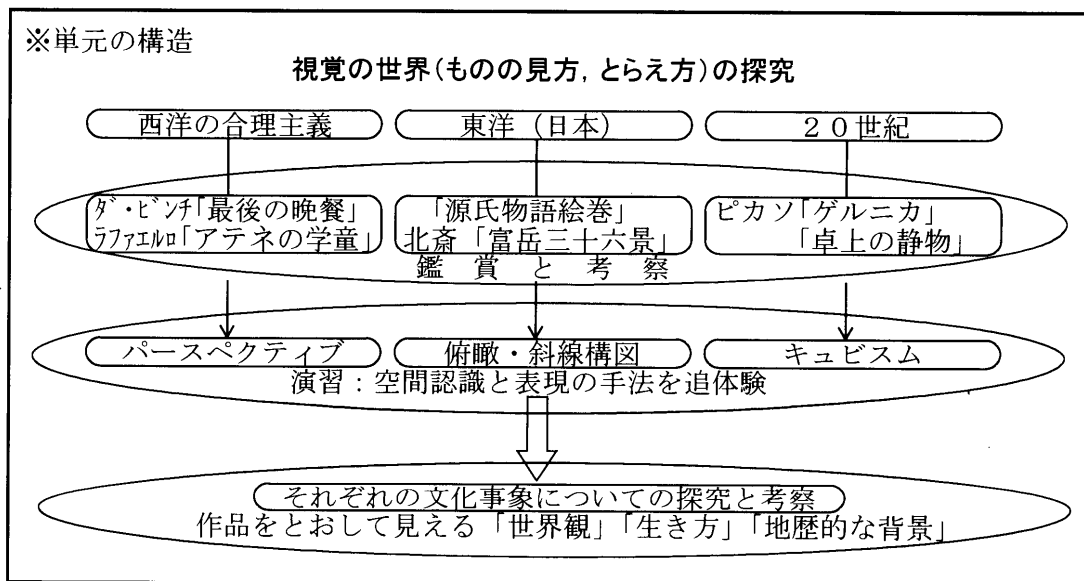
ものを視ること、描くことは物事を認識する一つの方法である。ものを視ることは何かを発見することであり、描く行為は対象を知り、それを心に深く刻み込み、自らの感性を通して何らかの表現として昇華することである。人間は様々な文化を生み出してきたが、視覚芸術では、時代や地域、民族によってものの見方やとらえかたは実に多様であり、文化事象を理解するためにはその背景にあるものを探究し学ぶことが大切である。



本単元で鑑賞や探究・考察の対象となる文化事象は、中世から近代・現代に至る「視覚の変遷」の中で、変革期・転換点にあたる特徴的な事象（作品）を幾つか取り上げる。西洋の科学的合理主義の始まりであるルネッサンス期の作品、日本の中世・近世の東洋的世界観に基づいた作品、20世紀のキュビズムの作品群などである。これらについて、書籍やインターネット等を活用して関連する情報を収集し、空間の認識方法や表現手法を考察することによって、その文化の背景を探究する。さらに、それぞれの手法を用いて実際に表現（体験）をおこなう。表現手法を追体験することでその時代の人々のものの見方やとらえ方、世界観についての理解を深めることをねらいとしている。上記の単元のねらいを明確にするため、以下のように授業の工夫をおこなった。

(1) 「鑑賞と考察」導入時の工夫

導入時にスライドやOHCによる作品鑑賞を解説を交えながら時間をかけて行うことによって、学習への興味関心を抱かせる。この際、いわゆる通史的に作品を見ていくのではなく、文化理解の手がかりとなるように多様で多面的な切り口で文化事象を扱う。例えば、人物をテーマとした作品



であれば、ルネッサンスのミケランジェロと鎌倉時代の源頼朝像、ピカソのキュビズムの作品を並列的に提示する。これらは人間を描いたという共通点はあるものの、時代も地域も異なり、ものの見方やとらえ方が決定的に異質である。それぞれの文化の特質についての発見や疑問「人間は何を見つめ、どのように表現しようとしたのか」がこの学習の動機となるのである。

(2) 体験活動「表現手法の演習」

この学習活動では、鑑賞や考察だけでなくその文化の手法を体験することで文化の背景に迫ることもねらいの一つである。レオナルドのパースペクティブの手法でスケッチを試みたり、東洋の中世の俯瞰的で並列的な図式表現で描くことや、20世紀ピカソのキュビズムの概念を迫体験することでその時代の世界観や人間観について思い考えることができる。

(3) 探究活動

文化事象（作品）を理解するためには、単に作品を眺め感動しただけでは不十分である。その文化の背後にある「人間」や「人間の生き方」を探究することによって理解を深めることができる。探究活動は以下のように進めた。

- ① 導入時のスライド等による作品鑑賞と同時にワークシートを提示して鑑賞における考察の視点を明確にし、探究活動の糸口を見つけさせる。
- ② 鑑賞や体験活動をとおして関心を持ったたり疑問に感じたことを整理させて、探究の対象となる文化事象（作品や作家）を複数選ぶ。
- ③ 書籍やインターネットなどで関連する資料を収集する。
- ④ 探究したことを幾つかの項目に整理し、考察を試みる。（レポートにまとめる）

(4) 文化の比較考察

上記の探究活動で取り上げた複数の文化事象について、比較考察を試みる。例えば「東洋と西洋」、「中世・近世と現代」、「パースペクティブとキュビズム」などの比較の視点で、空間認識、空間表現の手法、形態や明暗表現の特徴について考察し、「時代の様式」、「地域・民族の様式」についての理解を深める。また、現代の、そして自分のものの見方やとらえ方についても考えさせる

2. 評価の観点・方法

【関心・意欲・態度】

- ・ 課題に取り組む意欲・関心・態度・・・行動分析、評価シートによる自己評価

【表現・技能】

- ・ 主題を生成・構想し、創造的に表現する能力・・・作品評価

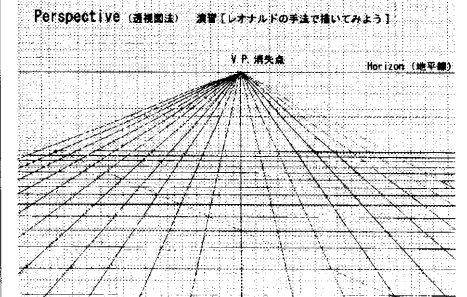
【思考・判断】

- ・ 多面的な視点からの情報収集や探究の能力・・・記録分析

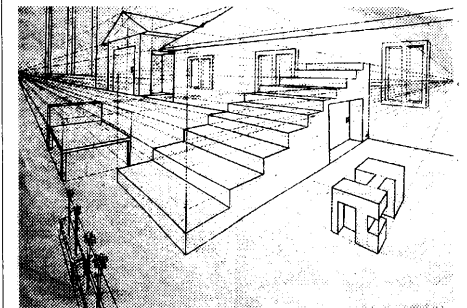
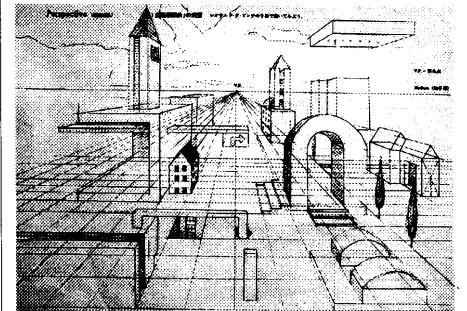
【知識・理解】

- ・ 文化について、その事象を生み出した社会の価値観へ迫る分析の能力、理解力・・・行動分析、レポート評価

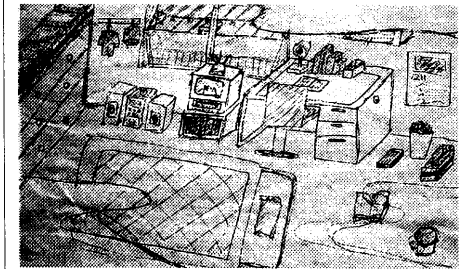
資料Ⅰ 演習のためのワークシート資料



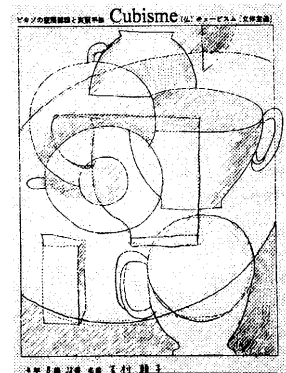
資料Ⅱ 生徒の演習例「パースペクティブ (レオナルドの手法)」



資料Ⅲ 生徒の演習例「東洋の俯瞰図手法」



資料Ⅳ 生徒の演習例「キュビズムの手法」



3. 単元計画 視覚の世界を探究しよう (配当時間計12時間)

題目(配当時間)	学習内容	指導上の留意点
1. 作品の鑑賞と考察 (2)	◎西洋の科学的合理主義の始まりであるルネッサンスのレオナルド・ダ・ヴィンチ「最後の晩餐」、ラファエルロ「アテネの学童」、日本の中世・近世の作品「源氏物語絵巻」、北斎「富岳三十六景」、20世紀のピカソの作品「ゲルニカ」「卓上の静物」などとその関連のある作品を鑑賞し考察する。	◇スライドや OHC を利用して提示する。 ◇それぞれの作品を見て感じたこと、発見したこと、興味を抱くこと、疑問に思うことを挙げてワークシートに記入させる。 ◇通史的に作品を見ていくのではなく、文化理解の手がかりとなるように多様な多面的な切り口で文化事象を扱う。 ◇それぞれのものの見方やとらえ方、表現手法の特徴について考えさせる。
2. 演習：表現手法の追体験 (7)	◎レオナルドのパースペクティブ、日本の俯瞰図や逆パース、ピカソのキュービズムの概念を理解し、その手法を応用して描く。	◇表現手法を迫体験することによって、その時代の人々のものの見方やとらえ方を理解させる。 ◇その手法を用いて実際にスケッチをおこない、自分なりの表現活動を通して、それぞれ空間認識の意味を理解させる。
3. 作品の背景を探究 (7)	◎作家の生涯や業績について調べる。 ◎書籍やインターネットなどで関連する資料を収集する。 ◎関連する文献やスケッチ・絵画などを調べ、その時代の人々のものの考え方についてレポートにまとめる。	◇鑑賞や体験活動をとおして関心を持ったり疑問に感じたことを整理させて、探究の対象となる文化事象(作品や作家)を複数選択させる。 ◇それぞれの作品について、空間認識、空間表現の手法、形態や明暗表現の特徴についても関心を持たせる。 ◇その時代に生きた人々のものの見方、思考や感性、社会的背景についても探究させる。
4. 比較と考察 (4)	◎「東洋と西洋」、「レオナルドとピカソ」、「中世と近現代」、「パースペクティブとキュービズム」など、様々な切り口から考察を試みる。	◇作品の背景にある世界観、価値観など、多面的な視点で比較考察させる。さらに人間の生き方についても考えを深めさせる。また、現代の、そして自分のものの見方やとらえ方についても考察し、レポートや作品にまとめさせる。 ◇「時代の様式」、「地域・民族の様式」についての理解を深めさせる。

評価の観点と方法	教科学習とのつながり など
<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題に取り組む意欲・関心・態度 (行動分析) ・ 芸術文化の鑑賞の能力 (ワークシート等の記録分析) <p>【表現・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 造形的な思考力 ・ 主題を生成・構想し、創造的に表現する能力 (作品評価) <p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多面的な視点からの情報収集や探究の能力 ・ 課題を整理し表現する能力 (行動分析, レポート等の評価) <p>【思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文化について、その事象を生み出した社会の価値観を探りながら理解しようとする態度や考察力 (レポート評価) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報を収集・整理し正確に伝える能力 (国語) ・ 諸地域世界の特質の理解と認識 (地歴) ・ 芸術文化の理解と鑑賞の能力 (芸術) <ul style="list-style-type: none"> ・ 事象を数理的に考察し処理する能力 (数学) ・ 科学的な探求の精神, 能力・態度 (理科) ・ 造形的な思考力・創造力・表現力・ビジュアルコミュニケーション能力 (美術) ・ 主題を生成し, 構想・展開・表現する能力 (芸術・国語) <ul style="list-style-type: none"> ・ 個性や感性をとおした創造的な表現と鑑賞の能力 (芸術) ・ 自分の考えを論理的にまとめる能力 (国語) ・ 歴史的思考力 (地歴) ・ 時代・地域・民族の文化理解 (社会, 芸術) ・ 自然や社会の事象への関心・意欲・態度 (社会・理科) ・ 現在の社会について主体的に考察し, 理解を深める力 (政経・公民) ・ 人間としてのあり方や生き方についての自覚 (公民)

